

たくさんの思いを乗せた特別な火をつなぐ

東京2020オリンピック聖火リレー

DAY 1 / 第3区間 第1走者

高橋 凌空 さん

たかはし・りく 16歳 下町二区



平成17年生まれ。不来方高2年、バスケ部所属。祖母、両親、姉、妹と暮らす。大更小、西根中卒。特技は水泳の自由形で、400メートルと1,500メートルの中・長距離専門。好きな言葉は「艱難汝を玉にす」。母親の作るパスタとハンバーグが好物。血液型はA型。

6月16日に焼走り国際交流村近辺の道路で行われた東京五輪聖火リレーで、第1走者を務めた高橋凌空さん。一步一步を踏みしめながら笑顔で走り切り「好きなことで五輪に関われることができ、とても楽しかった。たくさんの人から東京五輪への期待と復興への願いを感じた」と感慨深そうに話した。

走り始めたのは中学1年生の夏で、ひょんなことがきっかけ。水泳で中総体に参加するため中学では運動部に入っておらず、先生に頼まれて人数の少ないバスケ部の助っ人をするに。学校の外周を走る部活動合同朝練に参加し「辛さよりも少しずつ縮まっていくタイムに夢中だった」と自らの成長を実感する日々充実感を覚え、走ることに好きになった。2年生になり助っ人活動が一段落したことを機に、特設駅伝部として本格的に走り込みを始めた。特設駅伝部の練習以外にも自主練習を

重ね、3年生になるころには、走力は校内屈指に。連覇を狙う第34回県中学校駅伝競走大会では男子6区間の5区を担当し、区間1位の力走で、大会2位に貢献。「優勝に1秒及ばず、悔いはあるがそれも全員が全力を出した結果」と前向き。聖火リレーランナーに応募したのは母親で、ランナー内定の知らせを聞いたときは嬉しくて家族で喜び合ったそう。「二生の思い出を作る機会をくれた」と母親に感謝する。



聖火を手に笑顔で走る高橋さん

■編集後記
▽東京五輪直前合宿入りしたルワンダの選手たちを取材。世界レベルの競技者を間近で見れて感動しました。お互いのために取材2日前と翌日にPCR検査を受検。選手たちのこれまでの努力を思うと、ただただ頑張っほしいと願うばかりでした。結果もそうですが、笑顔で帰国してほしいです。
▽東京オリンピック聖火リレーを取材しました。一生に一度見れるかどうか分からない貴重な体験で、最終走者を務めた小林陵侑さんが登場すると会場はこの日一番の盛り上がりを見せていました。夏も冬もテレビから目が離せない日が続きますね！皆さんも一緒に応援しましょう。
(雅)

【広告】

コミュニティバス
「にね眼科」バス停すぐ

いぼ、癌、免疫系等

薬のプロフェッショナルが
あなたのご相談を承ります

漢方のあさひ薬局 西根中学校前店

公認スポーツファーマシスト
国際中医専門相談員
認定実務実習指導薬剤師

薬剤師 斎藤 貴将

八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311